

アスリートアンバサダー活動
インタビュー番外編
「インタビューって何？」勉強会

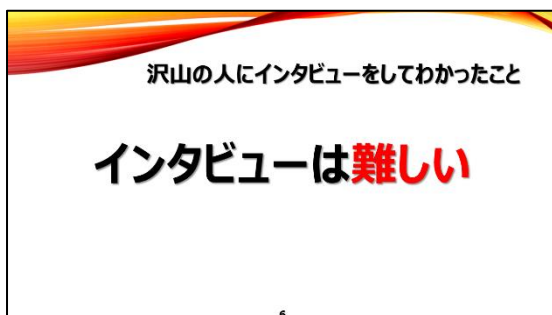


講師：株式会社日テレアックスオン 藤野 一樹 さん

日本テレビ系列の番組（NEWS ZERO や news ever.等）でディレクターやプロデューサーとして番組制作に携わってこれ、プロスポーツ選手や芸能人、一般の方々等、20年で約300人の方々にインタビューを実施。

インタビューとは

僕が、インタビューしてきて分かったことは、「インタビューは難しい」んです。

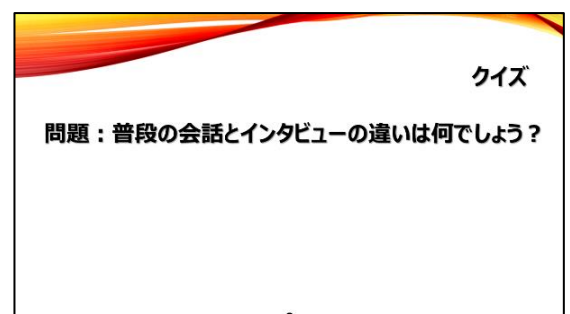


「こういう風に答えてほしいな」と思っても、なかなかそれが伝わらなかったり、スポーツで言うと、勝って嬉しい時は答えてくれるけど、負けてがっかりしているところに、それでもインタビューしに行かなくちゃいけない時もあります。

また、そういうシチュエーションだけじゃなくて、人から話を引き出すことは、とても難しいことなんですね。

ここで皆さんに、クイズです。普通の会話と、インタビューの違いって何でしょうか？

藤本、安田：うーん。。。





答えはね、普通の会話と違うのは、“誰かに聞かれる（読まれる）”、ということです。
誰かに聞かれるとか、読まれるってということが前提になると、それは会話じゃなくて、インタビューという形になる
んですね。

インタビューで大切なこと

インタビューで大切なこと

- ①誰に聞いてもらうインタビューなのか？
- ②準備をする
- ③具体的に聞く



インタビューで大切なことは、3つあります。

1つめが今言った、「誰に聞いてもらうインタビューなのか」。誰かに聞いてもらうことがインタビューだとすると、これは誰に聞かせるインタビューなのか、ということを考えて、知っておくというのが大切です。

2つめは、インタビューをするときに「準備をする」ことです。この人はどういう人で、どういう経歴か、どういう考え方の人なのか、というのを出来れば先に調べておくことがとても重要なね。

なので、今度インタビューをする小塚さんの事をよく知って、調べてあげてください。そうすると、こういう質問をしたいとかが分かってくると思います。

3つめは、「具体的に聞く」こと。具体的に聞くのはどういうことかという、例えば、愛史さん。愛史さんはバスケのどこが好きですか？

藤本：

バスケはですね、個人プレーじゃなくてチームワークが、コミュニケーションが良いかなと思います。

藤野さん：

答えが具体的ですごいですね。じゃあ、愛史さん。バスケの攻撃と守るときと、どちらが好きですか？

藤本：

いわゆる僕、両方が好きですね。

藤野さん：

あとはバスケをやっていて、1番楽しいなと思うことはどういうところですか？





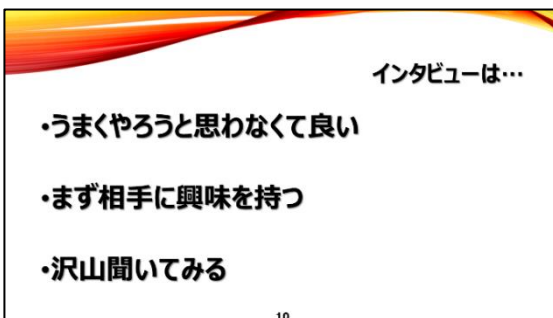
藤本：

仲間と絆かなと思います。お互いに、空いているところにパスをもらって、今は声掛けられないんですけど、ちゃんと声掛けたりが楽しいかなと思います。

藤野さん：

なるほど。面白い。いいですね。愛史さんの答え方が上手だったので、最初からすごく具体的に答えて下さいましたが、聞かれる方としては、大きいことを聞かれるより、細かく「こっちとこっちはどっちがいいですか？」という方が答えやすいです。なるべく具体的に聞くと、具体的な答えが返ってきやすっていうのが経験上あります。

インタビューで心がけていること



自分自身が心がけていることですが、インタビューは全然上手くやろうと思わなくて良く、1番大事なことは、相手に興味を持つことです。

「この人はどういうことを考えているのかな」とか、「どういう風に過ごしてきたのか」とか。そういうことに興味を持つと、沢山聞いてみたいことが出てくるんですね。

だから、別にうまくやろうっていう風に思わず、とにかく相手に興味を持って、そして沢山聞いてみるっていうのがインタビューで大事なことなんじゃないかなと思います。

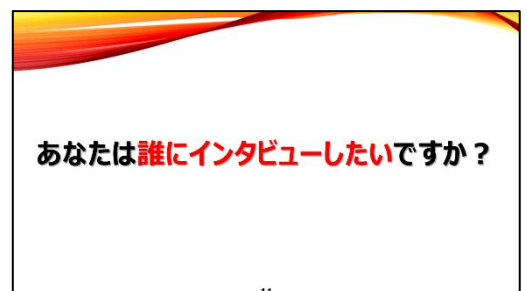
ということで皆さんにまた質問です。誰でもインタビューできるとしたら翔飛さん、誰にインタビューしたいですか？

安田：

渡邊拓馬さんです。

藤野さん：

なんで渡邊拓馬さんにインタビューしたいですか？



安田：

やっているスポーツが一緒なのと、始めたきっかけは何かとか、そういうことを聞いてみたいなど。

藤野さん：

なるほど。渡邊拓馬さんに一番聞きたいことってなんですか？

安田：

試合前に緊張したときに心を落ち着かせるというか、やっていたことは何ですか、と一番聞きたいです。



藤野さん：

なるほど、素晴らしい。きっと渡邊さんもすごく答えやすい、良い質問だよ。具体的でとてもいい質問だと思います。ありがとうございます。じゃあ、愛史さんは誰にインタビューしたいですか？

藤本：

僕、憧れという人がいて、芸能界で指原莉乃さんとか。



藤野さん：

おお、サッシー！なんでサッシーさんなんですか？

藤本：

番組で頑張っているところが好きになってしまって、番組の録画もとって見えています。



藤野さん：

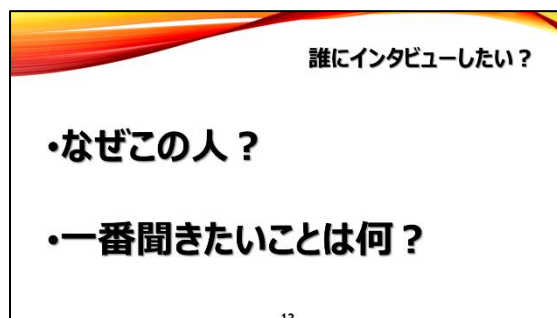
なるほど。面白い。そうなんだ。サッシーさんにじゃあ、インタビューしたとして、一番聞きたいことって愛史さん、何だろう？

藤本：

前はAKB48で、卒業しましたが、その卒業になったきっかけは何でしょうか、と聞きたいです。

藤野さん：

凄いな。テレビの人みたいだね。なるほど。なんて答えるんだろうね。面白い。ありがとうございます。



実は今聞いたことは、大事なことです。

「誰にインタビューしたい」とか、「一番聞きたいことは何？」っていうのは、やっぱりみんなが興味がある人で、バスケットを同じようにやっているからとか、ファンだからとか、興味がある人や好きな人っていうのは、話を聞きたいなと思うし、自分がこういうこと聞きたいなという具体的な質問が自然に出てくると思うんですね。

インタビューの基本、一番大事なことで、その部分で、相手に興味を持って聞きたいことを沢山聞いてみる、というのが、とても大事なことになると思います。

なので、今言ったように小塚さんのことに興味を持って、どういう風に、何を聞いたらいいかなっていうの考えてみてほしいなと思います。



インタビューの質問を考えるヒント

インタビューの質問を考えるヒントとして、「過去・現在・未来」と分けて順番に聞いていくと、インタビューされる側は答えやすいと思います。

例えば、過去のオリンピックに出た時の話や、さっき翔飛さんが言ったような緊張しない方法とか。あるいは現在、SOの活動をされていて、何を思って活動されているのかな、とか。あるいは未来。今後SOの活動で、こういうことやっていきたいとか、**時系列の順番に聞いていくと小塚さんも答えやすいかな、**と思います。

小塚崇彦さんにインタビューしよう

- ・時系列（過去、現在、未来）
- ・内容（競技、SO、個人）

13

またその内容が、競技の事なのか、SOの活動の事なのかを考えると、もっと沢山聞けることがあると思います。

なので、インタビューというのは本当に難しく考えなくてよくて、誰に聞いてもらうものかを知って、相手に興味を持って、沢山色々なことを聞いてみると、とても良いインタビューになるんじゃないかなと思います。

藤本、安田：ありがとうございました！

小塚さんインタビューの準備

SON スタッフ：

翔飛さんも愛史さんも、小塚さんに聞いてみたい質問をいくつか考えてきてくれたと思うので、どんな質問を考えてきたか教えてもらっていいでしょうか。

安田：

はい。「試合前にやっている緊張しない方法は何ですか」というのと、

「試合前に必ず聞いていた音楽とかはありますか」とか。

あとは、「普段漫画とか読んでいたら、お薦めの漫画はありますか」。それぐらいですかね。



藤野さん：

小塚さんも多分答えやすく、良い質問だと思います。

例えば、もしもプラスして聞くとしたら、小塚さんは多分、小さな大会から大きな大会、オリンピックみたいな大きな大会とか、いろんな大会出てきたと思うけど、例えば、翔飛さんが小塚さんの事をいろいろ調べてみた時に「この試合のこの時、何聞いてたかな」とか。

もしかしたらオリンピックの時って何か特別なことやってたのかな。そうじゃなくて、普段通りのことやってたのかなとか。そういう話も聞けると面白いかもしれないね。

SON スタッフ：

ありがとうございます。確かにオリンピックの時の話も是非、翔飛さん、聞いてみたいですね。



愛史さんはどんな質問を考えてきてくれたでしょうか？

藤本：

1 つはですね「スケートは何のきっかけがあって引退したのか」。2 つ目が、「ドリームサポーターになったきっかけは。アスリートアンバサダーにアドバイスは何かありますか」。3 つ目が、「オリンピックの前はどれくらい練習していたんですか」。4 つ目が、「試合で思うような演技ができなかった時どうしていますか」。僕は毎日練習していますが、試合でなかなかシュートが思うようにできない時があるので。5 個目は「何歳からスケートを始めましたか」。あともう一個が「引退になったきっかけは何でしょうか」というこの6つですね。

藤野さん：

すごい具体的で、とても良い質問が沢山ありましたね。

アスリートの人ってやっぱり、アスリートである限り競技で、試合で、大会ですっと勝ち続けることはできないので、うまくいかない時が絶対あると思うんですよ。その時にどういう風にしたらか、どう風思ったかっていうのって、そのアスリートの大事なところに届く質問だと思うので、とても素晴らしい、良い質問だと思います。

また、アスリートが引退する時って大きな決断だと思うので、そのきっかけを聞いたうえで、もしそれで気になることがあれば。例えば、競技者をやるより、その先の人生の方が長いから、「その時不安はなかったんですか」とか、その先にやるのがすごく明確に見える人もいれば、見えてなかった人もいます。「やめた後どうしようって思っていたのか」聞くと、また面白いかもしれないですね。

SON スタッフ：

藤野さんにアドバイスいただいたところ、ぜひ加えて愛史さんに質問してもらえたらなと思いました。ありがとうございます。

今日、参加できなかった、安藤里未さんも質問を考えてくれていて、ご紹介させていただきます。

里未さんからは、「いつスペシャルオリンピックスを知ったんですか。どういうきっかけで SO のこと知ったんですか。」「今、コロナのせいでスケートの練習とかできなかったと思うので、コロナ期間中、どう風過ごしてましたか。」「フィギュアスケート以外でやりたかったスポーツは何かあったりしますか」、あとは「フィギュアスケートって世界中で試合だったり、遠征が沢山あったと思うんですが、そういうところでの思い出や、言葉の壁とか、そういう苦労したこととかも聞いてみたい」という風におっしゃっていました。

藤野さん：

なるほど。面白いですね。みんなそれぞれ答えやすい質問というか、小塚さんがイメージしやすく、具体的で、とても良い質問だし、皆さんが小塚さんに「これを聞きたい！」ということがすごく伝わってきました。

SON スタッフ：

藤野さんに、質問の順番等どう風質問したらいいか、構成のアドバイスも教えていただけると嬉しいです。



藤野さん：

答える側の、小塚さんの気持ちを考えると、古い話からだんだん新しい話になった方が、気持ちがこう、ゆったり来たりしないで答えやすいかなと思います。

だから今いろんなお話出たけども、「スケートを始めたきっかけ、何歳から始めましたか」という質問を、一番最初にしてみる。そうすると小塚さんがスケートを始めた頃の気持ちに戻って答えてくれると思うんですよね。そこから、競技をやっている時のいろんな質問をしたり、だんだん昔の話から今の話、未来の話みたいな感じで、そういう順番を立てていくと、小塚さんとしては答えやすいと思います。

ただ、普段読んでいるお薦めの漫画とかは、どっかにポンって入れても面白いかもしれない。真ん中辺に急に入れても「ええ！」ってなって面白いかもしれないし、最後の方でも全然いいし。そんな感じで思いました。

SON スタッフ：

ありがとうございます。藤野さんにアドバイス頂いた通り、構成考えましょう。

みんな、当日どうですか。頑張れそうですか？

藤本：

緊張していますね、頑張ります。

藤野さん：

インタビューって、試合前、試合終わって選手とかにインタビューする時は、選手のテンションが上がっているから、パーって答えてくれるんだけど、改めてこう1対1とか、テレビカメラにいっぱい囲まれてインタビューされる時とかは、選手もめちゃくちゃ緊張しているから、聞く方が緊張すると選手も緊張するから、聞く方はなるべくこうリラックスさせてあげようと思って聞いた方が良くて。緊張はすると思うけど、リラックスさせてあげるくらいの気持ちでやった方がいいかな、と思います。でも、緊張することは全然悪いことじゃないからね。良いことだと思います。

SON スタッフ：

本番の小塚さんへのインタビューの時も、藤野さんも参加してくださって、見守ってくれていますので。またそこで、今後に繋がるアドバイスを藤野さんにいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

藤本、安田：よろしくお願いします！

藤野さん：

頑張ってください。

